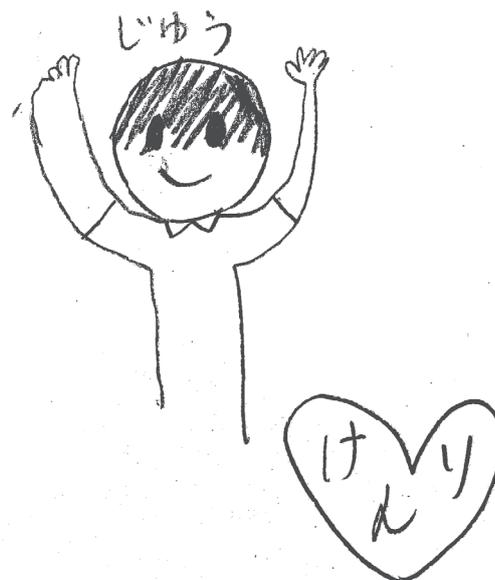


# ちいき人権 World

発行  
2021年度 夏号(No.103)

発行：世界人権宣言八尾市実行委員会  
委員長 土田 紀康  
連絡先 TEL 072-924-9853  
FAX 072-924-0134  
編集：「ちいき・人権・World」編集委員会



## CAPとは…

### Child (子どもへの) Assault (暴力) Prevention (防止)

すべての子どもたちに、自分の大切さを教え内にある自信を育てる事を目的とした人権教育のプログラムです。子どもがいじめや虐待、誘拐、痴漢などの暴力から、自分自身の身を守るための具体的な防止方法を子どもに伝え、一緒に考えます。



1978年 オハイオ州コロンバスのレイプ救援センターによって作成されたプログラム  
1985年 米国のCAPトレーナー森田ゆりさんにより日本に紹介される  
1997年 CAPプロジェクトやお 発足

## も く じ

- |  |                                     |
|--|-------------------------------------|
| 2 P..... CAP プロジェクトやお設立 25 周年記念<br>設立からの歴史を振り返る座談会   | 11 P..... 白根さんと考えよう！世界の人権 37        |
| 6 P..... CAP プロジェクトやおへのメッセージ                         | 12 P..... 新共有する時間は…part47           |
| 7 P..... CAP ワークショップの感想<br>/ 人権啓発缶バッチ紹介              | 13 P..... うーさんのおすすめ本<br>/じやりちえ日記 70 |
| 8 P..... コロナ差別と地域共生                                  | 14 P..... 気ままにおしゃべりシネマ 46           |
| 10 P..... 差別防止の啓発ポスターを作成しました<br>/ 人権侵害に関する無料法律相談のご案内 | 15 P..... 勝手にきゃらふる 69               |
|  | 16 P..... 歌詞紹介・まちがいさがし⑩             |

～CAPプロジェクトやお 設立25周年記念～

# 設立からの歴史を振り返る座談会

2021.7.11



立ち上げ初期メンバー…○

大谷眞砂子・隈美智子・西川あり

現メンバー…●

梶山恵美・新開ちあき・小田愛理

CAPプロジェクトやおは25周年を迎えます。25周年を記念して、現在CAPの活動をしているメンバーと初期メンバーが立ち上げ当時や今を語り合いました。

## みんなゼロからのスタート

●：CAPプロジェクトやおの正式な発足は97年、来年は25周年ということになります。それで立ち上げメンバーに当時の話を聞こうと座談会を提案しました。

○：ゼロからのスタートでした。95年に第一回目の森田ゆりさんのCAPスペシャリスト養成講座があって、立ち上げメンバーのひとりの庖丁さんが受けたのがきっかけです。96年には準備会を発足して、当時のメンバー6人が毎月集まって、プレ（就学前プログラム）のための人形を作ったり、ほかのグループと情報交換、プログラムを実施し始めていたグループの手伝いに行ったりしていました。

それで、97年に正式にCAPプロジェクトやおとして発足しました。

●：スペシャリストの養成講座を受けた時の印象はどうでしたか？

○：森田さんが素敵でした（笑）アメリカのプログラムということで、理論的に組み立てられているし、人権感覚というか、子どもの立場、気持ちにしっかり立ったプログラムでそれは驚きました。一緒に養成講座を受けている人の話を聞いたり、自分を振り返ったり、人との出会いで新しい世界がどんどん広がっていくという感じでした。

●：日本のCAPの広がり方は驚異的だったと聞いています。

○：CAPプロジェクトやおが発足した97年には、日本で140以上のグループが活動を始めていました。

最初にCAPのプログラムに惹かれた人たちは、各地でフェミニズムの運動をしている人や、女性の生き方に迷ったり悩んだりしている人が多くて、人権という言葉を変えて自分の問題と結びつけた、その熱さはすごかったと思います。

## CAPを広げたい人とのつながり

●：当時のことで一番印象に残っていることってありますか？

○：その頃に出会った人に「あんたらお金取るんか？」って驚かれたのが、すごく印象に残ってます。それまで人権の事をずっとやってきた人で、人権の仕事に料金を設定するという発想がなかったみたいで、衝撃だったみたい、いい意味でね。それでCAPの活動をずいぶん応援してくれた。特に、女の人が働いても、女性のすることはボランティアで、お金は出ないっていうのが多かったから。

お金で思いたしたけど、他にも応援してくれた校長先生がいて、最初に校長会で大人ワークをやるように声をかけてくださった先生だけど、

自信がなくて断ってしまった(笑)怖くて…。

八尾はゆっくりしてるってほかのグループにも言われるような中で、少しづつ広げて、やれるって自信がついてきたとき悩んだのがワーク料のこと。

子どものワークがなかなか広がっていかなくて、ワーク料を下げようかって悩んだ。その校長先生に相談したら、「下げなくていい、お金を取ることで、それに見合うプライドも努力もついてくる」って。その思いは今でも続いているよね。ほんとに感謝してる。プライドと同時に責任みたいなもの、それを引き受けるって厳しいことやけど。

●：初期はおとなワークが多かったということですが、今八尾市でしてる子どもワークにはどうつながったんでしょう？

○：最初の頃は、保護者ワークを受けてくれた人が、学校に予算がないならって、PTAでお金集めてくれたりしました。いろんな人を巻き込んでいったというか、こちらも巻き込まれていった。行動力のある人がいて、学校に掛け合ってくれたり、PTAの人が動いてくれたのは大きかったね。

学校でできないならと、希望者だけでやったこともありました。だから子どもワークにつながって子どもに実施できた時はホントうれしかった。今は行政とつながって開催できるけど、子どもに届けられるありがたさみたいなものを忘れないでほしいです。

●：当時の資料を見ると、八尾はほとんどなくて東大阪が多いですね。

○：八尾はなかなか広がらなかった。東大阪の組合の女性部で、CAPを広げたいって先生たち



1996年発行の第1号～13号までのCAPレター。やさしいイラストが印象的。

と繋がって、教職員ワークをするたびに先生とのつながりが増えて学校で子どもたちにワークができました。熱心な男性の先生もいた。人権教育の新しい流れみたいなものから学ぼうとしておられたけど、話していて私たちが学ぶものが多かった。

●：今は、養成講座はCAPセンター・JAPANでやっていますが、八尾はグループで養成講座をしましたね。

○：八尾は2001年5月に第一回養成講座をやりました。1996年から5年後。勢いあるよね。

私は、地域で養成するのがベストだと思ってます。養成するとなったらもう一度勉強しなおすし、すでに活動をしている人も再度受けたり、養成する側になったり得るところが大きいと思う。事情があってお金を自由に使えなかった人が、講座を受けたあと、CAPのワーク料で少しづつ返してくれたっていうのがあった。その後の彼女の自立のきっかけになったと思う。誰でも受けられるっていいと思う。結局、八尾での養成講座は3回ですね。

### 伝えたい想いは、きちんと伝わる

●：ほかのグループに比べて八尾のカラーとかがあってあるのかなあ？

○：どうも他のグループの話を見ると、八尾は結構アバウトみたい。他のグループはもっと厳しい、ワークの後の振り返りとか、そんなふうに言われたらやる気なくなるって心配になるくらい。なんで八尾は、良く言えば優しいのかって考えたら、みんな失敗した経験があるからだと思う(笑)。立ち上げの時は、みんな初心者で、突然セリフが出てこなくなった人がいても、ほかのメンバーは自分のパートのことで頭がいっぱいで助けてあげる余裕もなかった。でも次回からは、そんなことがないように努力したよ(笑)

それでも進んでいったからね。「忘れまして、ごめんなさい！」でスクリプト(台本)をカンニングして。でもやれる、伝えたいって気持ち大きいし、人間と人間の出会いやから。お金の時の話と矛盾してるみたいですが、この幅が大きさにつながる。(笑)



●：その伝えたい思いが強いとか、熱は受け継いでますね。時間が足りないもんね。八尾はアバウトっていうのも受け継いでる。みんな真っ白になった経験あるってきいたら安心する。全員が初心者で始まったのって、今考えたらすごいよね。

○：うん、無謀かつ新鮮ですばらしい。

●：初めてファシリテータをした頃は、私がファシリテータでいいの？ってすごく思った。私じゃなかったら、もっといい話がきけて、もっと吸収できたんじゃないかなって思うと子どもたちに申し訳ないって。でも大谷さんが「その時の出会いは巡り合いやからそれでいいんだ」という話をしてくれて、それで吹っ切れた。出会ってくれてありがとう！って思う。どんな言葉でも、そこに思いがこもっているから子どもたちには伝わってると思う。

○：前に出るエネルギーと、自分でいいのかって振り返る謙虚さって両方ある人は魅力的やと思う。

ワークやってるとき、子どもから「なんで仲良しなんですか？」ってよく聞かれた。女の人が協力して何かやってる光景ってあんまり見ないのかな。「誰が上司？」って聞かれた人もいる。対等で助け合える関係、そういう事が伝えられるってすごいと思う。だからプログラム以外で伝えてることも多いと思う。助け合ってるとか、頼りあってるとか、相談してるとか、信頼してるとか。

子どもの状況って20年くらい前と変わってるのかな。

●：子どもの状況って全然変わってへん。いつまでたってもCAPが必要じゃない状況にならない。CAPの内容をなんで変えないんですか？

て聞かれるけど、世の中の子どもの状況って変わってない。いじめの種類はネットとかLINEとか変わってるけど、根本的なことは全く変わってないよね。その辺りをもっと大人が考えないとアカンよね。良くならないのはどういうこと？って。

## CAPを継続することの大切さ

○：初めの数年は「知らない人からは距離を取っていい」とかっていう内容に、子どもが人を信じなくなるって抵抗を示す人がかなりいたけど、その後、急激に子どもを取り巻く社会が変わってしまって、信じないくらいでいいという感じになってしまった。いじめも、虐待もひどくなっていくばかりやもんね。CAPがいいのは、人権意識を子どもに分かりやすく伝えて、被害にあうと見失いやすい、自分を守っていいっていうメッセージが守る方法と一緒に伝えられるとこやと思う。友だちと協力したり、おとなに相談したり。

●：先生との振り返りとかでも「先生一人で頑張らないでくださいね」ってよく言います。今年の新任研修に参加した先生が、子どもの時に八尾でCAPを受けたそうです。年齢的に（大谷さんや隈さん）の頃にCAPで出会った人です。感想で「子どもの頃に受けた時に、家の人以外でも子どもを助けようとする人がいるんやっていうのが新鮮だった」と書いてくださって、すごいって思った。CAPがずっと種を蒔いてきて、今、自分たちも蒔いてるって。

○：時の流れを感じるね。そんな話が聞けるのがほんと嬉しいです。種を蒔くのは結果が見えるけど、CAPの場合、サクセスストーリーであがってくるのはほんの一部。自分たちのモチベ



ーションを維持するのって見えないものを信じる力だと思う。プログラムを切実に必要としている子どもはどのクラスにも必ずいて、エンパワメントすることの意味を信じたいです。

## 子どもの現状とCAPやおのこれから

●：最近、トークタイム（ワーク後に子どもと話す時間）で、一緒に考えようって言っても、相談＝解決してもらえって思ってるのか、「どうしたらいいですか？何をしたらいいですか？」って。自分や、相手がどんな気持ちとかの話にならない。これは、おとなの側の共感力の問題かなって感じるがあります。

○：感情も学ぶものだと言うから、話すことが第一歩かも。聴いてもらってほっとしたとか、あなたは どうしたいってきいてもらって自分の気持ちを考えたりすることができるもんね。

●：子どもが誰かに話すことで、どんな気持ちか、どうしたかったかを改めて感じるっていう経験がないのかも。「ああしなさい。こうしなさい。」って言われて、その通りしてきたのかも。

反対に「○○してもダメだったらどうする？それもダメだったら？…」って不安が消えない子ども居る。大人も子どもも答えが無いことに弱くなってる気がします。答えなんてないのに。

ある先生の感想に「子どもに話しかけられたら、先ず指導しないって思う。良し悪しの判断や、どう指導してしていくかを考えてしまって、共感ということが自分には足らなかった」って。すごい気づきやと思いました。

○：先生は勉強を教える専門家だけど、私たちと同じように生きることに関してはみんな発達途上で、先生も自分の人生経験しかない。学校って日本中の矛盾や問題が全部集まった場所やから、一人の先生に解決を委ねるってひどい話やと思う。でも、その矛盾の中で、子どもは生きてるんやから、一緒に考えていくしかないよね。CAPでいえば、子どもの力を信じて、共感して話を聴く。一緒に考えるやね。

コロナで去年はCAPができなかったと聞きました。

●：去年は早い段階で教育委員会が中止を決めました。それで、去年の3年生だけCAPを受けていません。どうにかしたいと政策課と相談して、リーフレットを配ってもらったり、FM ちゃおさんと一緒に「こどもの命をまもるリーディングキャンペーン」のラジオ番組で子どもたちの声を集めるハガキを、配ったりしてもらいました。

他市ではCAPを実施しているところもあって、残念でしたが、今できることをやろうと思って。○：そうなんや。いろいろアイデアを出し合ったんやね。今年は実施できているそうで、良かったです。コロナの影響はこれからいろんなところで出てくるような気がします。経済の問題も、精神面も子どもを直撃するので、CAPのプログラムを実施して、子どもを力づけてほしいです。と言いながら、おとなが力をもらうことも多いよね。

●：今活動してるわたしたちは最初の頃の勢いや熱量がうらやましいよね。今、そのエネルギーが持てるかって言われたら難しいかもしれない。自分たちが今してる事がどういうことなのかって、何回も振り返ることが大事ですね。

○：子どもの頃に虐待やいじめを受けて、おとなになっても苦しんでいる人に会うと、今、子どもに伝えることが大事なんやって実感します。でも、伝える側も学んだり刺激を受けたりしてエネルギーをためていかないと出すばかりではしんどい。しんどい時ほど学んだほうがいいよね。新しいことを学ぶとエネルギーになっていくから。

●：先日CAPの事務所が引っ越ししたから、子どもや先生がしゃべれる場所になったらいいな。これまでの予防教育とは違って、これからいろんな勉強や準備もしていけたらいいなと思います。



## CAP プロジェクトやおについて、メッセージをいただきました。

CAP 子どもワークショップは、全市立小学校（現在は義務教育学校も含む）の第3学年児童を対象に、CAP スペシャリストを講師にお招きして平成20年度より実施しております。児童が自らの人権を認識し、暴力などから自分の身を守る力を育成する本取り組みは、近年、子どもたちの人権を脅かすさまざまな事象が後を絶たない中、非常に重要なものであると捉えております。

残念なことに昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年どおりの開催はできず、資料配付にて児童にCAPの趣旨をお伝えする形となりましたが、今年度につきましては、講師の皆さまにも感染対策の工夫を講じていただきながら、ワークショップの実施が再開できたことは、担当としても大変喜ばしく思います。

教育政策課

小学校では、毎年3年生にCAPプログラムを実施しています。このCAPプログラムの効果は、いざという時に自分の身を守るための方法を具体的な劇を通して体験させてくれることです。CAPメンバー3人の劇は、具体的にわかりやすく、児童自身の自己を守るための意識が高まってきていると感じます。また、「困った時に、どうしたらいいのか」をそれぞれに考えさせる場面が数多くあるのも特徴です。児童一人ひとり感性は違うものの、困った時の対応や、自己を守るために取るべき行動がわかりやすく示されています。最後に、自分自身が相談できなかったことや学習後の気づきを聞いていただく場もあります。このような取り組みが、児童一人ひとりが人権を大切にすることに繋がっていると感じます。

八尾市立南高安小学校 校長 爲房 佳祐

私とCAPとの出会いは、市教委で勤務していた平成20年度に遡ります。以来、長きにわたり、CAPは八尾の子どもたちに「自由」と「勇気」を与え続けてくれています。

この度、学校現場にCAPを迎え、ワークショップやトークタイムを通じて、子どもたちに元気を与え、力を引き出していただく姿に、感謝の気持ちと共に、事業の効果を学校現場で実感できたことに格別の思いを抱きました。

コロナ禍で、学校においても、フェイス to フェイスでの対話機会が減っています。併せて、大人も家にいる時間が増え、家庭や地域に不安やイライラが増えています。このような時期だからこそ、子どもたちの力が発揮できる場や機会が必要です。CAPの活動に感謝です。

八尾市立山本小学校 校長 仁科 尚裕



## 今年 CAP ワークショップを受けた八尾市立小学校の子ども保護者から感想をいただきました。

CAP のワークを受講した日、帰宅するなり興奮気味に話しをしてくれました。そして安心・自信・自由～やねんで～子どもにも権利があるんやで～お母さん、権利ってしってるか?! 怖いときはうお～って低い声だすんやで。うお～やで!

先生とは違う大人の人から教えてもらったというのも、子どもの心にはとても響いたようです。(保護者 Iさん)

あんしん、じしん、じゆう!

よほど心に残ったのか権利の歌をずっと歌っていました。また襲われた時の対処の仕方を妹に教えてあげたりしていました。CAP を受けて安心してほしい! と思ったと話してくれました。

子どもたちの心に響くお話を下さりとても良かったです。ありがとうございました!(保護者 Nさん)

こんな時はどうすればいいのかな? というのをお友達が前に出てやって見せてくれたので、色々な方法があって、これだったら自分も出来るかもと思えたようです。私にも相談してくれる機会が増えて、嬉しいです。(保護者 Uさん)

子ども(小学3年生)がCAPを受けて、「安心、自信、自由」の話を聞かせてくれました。

私は日々の生活で、子どもたちにかかる言葉で知らず知らず、自信を失くさせたり、自由を奪ったりしていることがあるのではと気付かされました。

子どもたちには自分を大切に生きて欲しい。まずは私が自分を大切にしようと思いました。ありがとうございます。(保護者 Tさん)

…保護者をはじめ、子どもに関わる仕事や活動をされている全ての方へ

## CAP キャラバン 2021

子どもへの暴力のない安心な地域づくりを目指して、八尾市内の各地で開催しています。

子どもの年齢(発達)に応じた情報やスキルを知り、加害者にも被害者にもさせないために、ワークショップを通して、地域や家庭で出来ることを一緒に考えます。

詳しくはCAPプロジェクトやお事務局にお問合せください。

### CAP プロジェクトやお事務局

電話 / FAX : 072-915-4936

メールアドレス : capyao1996@yahoo.co.jp

ホームページ : <http://capyao.main.jp/>

## ひゅーペンの人権啓発缶バッチを紹介します

### ●つまり、多様性共同参画ってこと!!

「男女共同参画週間」の啓発缶バッチを作りました。

毎年6月23日から29日までの1週間を「男女共同参画週間」として、様々な取組を通じて男女共同参画社会基本法の目的や基本理念についての理解を深めることを目指しています。性別にとらわれず、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できる「つまり、多様性共同参画ってこと!!」を実現するために、この機会に考えてみませんか?



八尾市人権協会には、たくさんの種類のひゅーペンの人権啓発缶バッチがあります。

ひゅーペンの人権啓発缶バッチを実際に見てみたい方、欲しい方は、八尾市人権協会までお気軽にお越しください。

## コロナ差別と地域共生

八尾市社会福祉協議会の役員及び地区福祉委員会等を対象とした人権研修会が3月25日に開催されました。八尾市人権協会では、毎年、この研修会への講師派遣協力をしています。今回は新型コロナウイルス感染拡大に関わり、陽性者はじめ医療従事者や介護従事者等いわゆるエッセンシャルワーカーが差別をや排除される侵害事象が報道されているのを受け、一般社団法人部落解放・人権研究所、所長の谷川雅彦さんを紹介し、「コロナ差別と地域共生」について講演されました。谷川さんの了解を得て、事務局編集責任にてその内容をご紹介します。

### コロナ差別とハンセン病に対する差別

まず、コロナ差別を考える上で非常に大事なことがハンセン病だと思います。ハンセン病は病原性のきわめて弱い、死にいたることはまれな病気ですが、私たちの頭の中に残っているのは恐ろしい病気というイメージではないでしょうか。そういったハンセン病に対する差別や偏見は1907年の『癩予防に関する件』から始まり、1931年『癩予防法』、1953年『らい予防法』という3つの法律が作り出してきたといえます。ハンセン病は恐ろしい病気というイメージは歴史の中で植え付けられていったんです。薬ができて、治療すれば治る病気となっても法律で療養所という名の収容施設に隔離されました。全国の都道府県が競い合ってハンセン病患者を見つけ出して、役所、警察、保健所に通報したりして地域社会から患者をゼロにすることを目指して運動がありました。コロナゼロと聞くと、ドキッとします。周りにコロナの感染者がいなかどうかチェックして通報するということがコロナも同じようにとらえられています。これは同調圧力として、同じ過ちを繰り返しているのではないのでしょうか。

1996年に『らい予防法』は解消され、患者が隔離されたのは憲法違反だということで、国は訴えられ、原告が勝ちました。この判決を踏まえて、感染症に対する差別がどうして生まれ、広がっていったのかを検証するため、ハンセン病検証会議が作られ、二度とこのような差別を

起こさないという提言を出しました。その中で非常に大事だと思うのは患者や被害者の権利を法制化するという事です。病気になったことで困っているのに、病気以外の差別や人権侵害という被害から救済する法律や制度が必要です。今、日本にあるのは人権侵犯処理規程という内規であり、強制力をもたないものです。我が国の人権擁護行政というのはそのレベルにとどまっています。ハンセン病検証会議は国民の人権を守るしくみはきわめて不十分だと指摘して、人権擁護の法整備を求めました。こういう差別や人権侵害の歴史があったことを教育や啓発においてしっかりと教えて、語りついでほしいということを提言するわけです。

### 新型コロナウイルス感染拡大から生まれた差別

私たちはハンセン病という感染症において大変な差別や人権侵害を作り出すことに加担してきました。それをわかったうえで今、目の前で起こっている新型コロナウイルスの感染症という問題にどう向き合っていくのかということで、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を振り返ってみます。

去年の1月に中国武漢で原因不明の肺炎が確認されたということで厚生労働省は注意喚起を行います。その後、国内初の感染者が確認され、2月には全国の学校に臨時休校を要請、3月にはWHOがパンデミックだと発表し、4月には政府が緊急事態宣言を出しました。これが全国に拡

---

大し、5月に解除された後、GOTOトラベルがスタートしたりします。10月には国内感染者が10万人を突破し、11月政府の分科会で急速な感染拡大の可能性が高いと緊急提言が出され、GOTOトラベルの運用が見直され、12月に一時停止します。その後、変異ウィルスが確認され、1月に再び1都3県で緊急事態宣言、3月によく解除ですが、第4波という様相があるわけです。

当初は国内での中国人をはじめとする外国人への差別、排除という形で始まります。さらに欧米では中国人、アジア人、日本人への差別排除が広がっていきます。ダイヤモンドプリンセス号の乗船客や家族に対する差別、市民の中に感染が広がっていくと感染者が出た学校、会社、介護施設、また医療従事者、介護従事者、運送業者、いわゆるエッセンシャルワーカーと言われる人たちへの差別排除が広がりました。県外ナンバーの自動車、県外から帰ってくる家族、また仕事等で他県へ出向く人たちに対する差別や嫌がらせ、自粛警察、マスク警察というものも登場し、朝鮮学校の附属幼稚園をマスク配布対象からはずすという問題も起きました。

いろいろなものがデジタルオンラインにかわっていったって、学校などでも授業をオンラインでやりますとって、パソコンのない家とか通信環境のない家の子どもの学びに格差が出てきます。それまでもあった社会矛盾がどんどん激化して、問題が先鋭化しています。

ハンセン病、HIV等感染症問題を踏まえてできた感染症法の前文に、過去に感染症の患者等にいわれのない差別や偏見が存在したという事実を重く受け止め、これを教訓として今後に活かすことが必要だと書かれていますが、全く活かされていません。

自粛というのは、移動の自由を止めたり、営業の自由を止めたりして、人権を制限するわけです。その時には差別や人権侵害が起こらないよう、起きた時はその差別や人権侵害に対応できるしくみもセットで準備しておかなければなりません。しかし人権は制限するけれども救済はしない、補償はしないということですずっと

ているので、大変な問題が起きています。感染するという不安と、感染すると差別されるという恐怖がどんどん大きくなることで忌避や排除、差別が広がっていつています。人権の制限が必要な場合は法整備が不可欠だと思います。

### 差別問題は重要な地域生活問題

最後に地域共生の話をしてします。社会福祉法に地域福祉の推進という項目が定められています。地域住民等は地域福祉課題を見つけ出し、みんなで解決するようにということです。差別問題というのは重要な地域生活課題だと思います。厚生労働省の社会福祉法担当の方とお話したときに障害者に対する差別、外国人に対する差別など地域共生してするためには差別をなくさないとだめですが、地域生活課題に差別の問題は入るんですかと質問したら、間違いなく入りますとおっしゃいました。地域生活課題の中にコロナ差別の問題を位置付ける必要があります。

コロナ差別解消というのは、法律に定められた社会福祉協議会の課題なんだということを最後に強調しておきます。地域共生社会に向けて、重層的支援体制整備事業が創設され、断らない相談と国は言いました。地域住民、地域福祉に参加する人たちが差別をなくすという地域福祉課題を解決する取組に参加し、人権のまちづくりを通して地域共生社会を実現していくことが社会福祉協議会の課題だと全社協も強調しておられます。その中にコロナ差別というものもしっかりと位置付けてどのように取り組んでいくのかご検討をお願いして、終えたいと思います。



## 新型コロナウイルス感染症に関連した差別等を防止するため、啓発チラシを作成しました！

八尾市人権啓発推進協議会は、差別のない明るいまちづくりの推進に向け、さまざまな取り組みを進めており、昨年度は、新型コロナウイルス感染症に関連した差別等を防止するため、啓発チラシを作成しました。

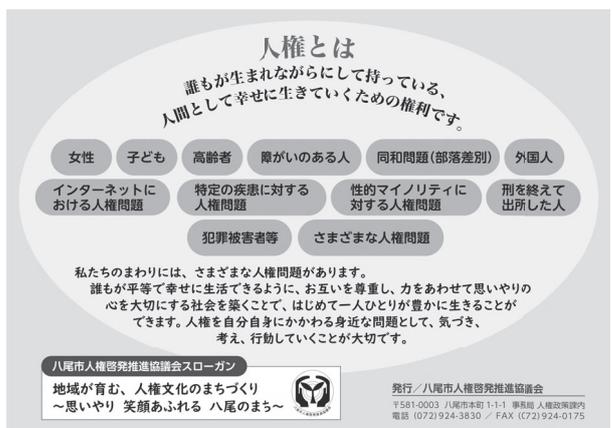
新型コロナウイルス感染症に関連した差別、偏見、いじめは決して許される行為ではありません。

差別に加担してしまう人たちの多くは、自分の行動が差別にあたるという感覚が薄いかもしれませんが、コロナ禍においては誰もが、コロナ差別の加害者にも被害者にもなりえます。

不確かな情報に惑わされて人権侵害につながることをのまないよう、新型コロナウイルス感染症に関する正確な情報に基づいて冷静な行動をとりましょう。

人は誰でも病気にかかります。病気にかかったからといって、人は差別されてはなりません。恐れるべきは人ではなく、ウイルスです。人権を守るために私たちができることをしましょう。

そして、新型コロナウイルスによる差別を絶対になくしましょう。



## 人権侵害に関する特設無料法律相談をご利用ください

予約制  
弁護士による  
**人権侵害に関する  
特設法律相談**  
相談無料  
秘密厳守

この法律相談では、障害者差別解消法・ヘイトスピーチ解消法・部落差別解消推進法のいわゆる「差別解消3法」に関して悩みを抱えている人に法的なアドバイスを行います。

相談例  
結婚差別 就職差別 サービスの利用における差別 など

日程 毎月第4金曜日  
※ただし7月は第5金曜日に開催

時間 13時30分～15時30分  
※お一人30分まで

場所 八尾市役所本館10階  
市民相談室

対象 市内在住・在勤者

ご予約・お問い合わせ  
八尾市人権政策課

TEL 072-924-3830  
FAX 072-924-0175

八尾市では、障害者差別解消法やヘイトスピーチ解消法、部落差別解消推進法のいわゆる「差別解消3法」に関する法的な相談内容に特化した「人権侵害に関する特設無料法律相談」を実施しています。例えば、結婚差別や就職差別、サービスの利用における差別など、差別解消3法に該当するものであれば、ご利用いただけます。

市内在住・在勤・在学の方が相談でき、弁護士が相談に応じます。実施日は、毎月第4金曜日の13時30分～15時30分の間で、1回あたり30分です。場所は八尾市役所本館10階市民相談室となっております。秘密は厳守されますので、ひとりで悩まずお気軽にご相談ください。

**【お申し込み先】八尾市人権政策課**  
電話番号：072-924-3830  
FAX 番号：072-924-0175

# 白根さんと考えよう! 世界の人権37

国際NGO「CCPRセンター」「ISSYO」所属 白根大輔

## ミャンマー

2021年2月1日、ミャンマーでは前年11月の総選挙で当選した議員による連邦議会がその最初の会期を開始する予定でした。しかし同日早朝、総選挙の不正を訴えるミャンマー軍がクーデターを起こし、非常事態宣言を発令、2月2日には独自の統治機関として行政評議会を設置しました。国家顧問アウンサンスーチー、大統領ウィンミント、その他複数の連邦議会議員や与党メンバー、著名な民主化運動活動家を拘束し、軍政統治を推し進めようとするミャンマー軍の動きに対し、民衆は不服従運動や平和的なプロテストを通して抵抗を開始しました。

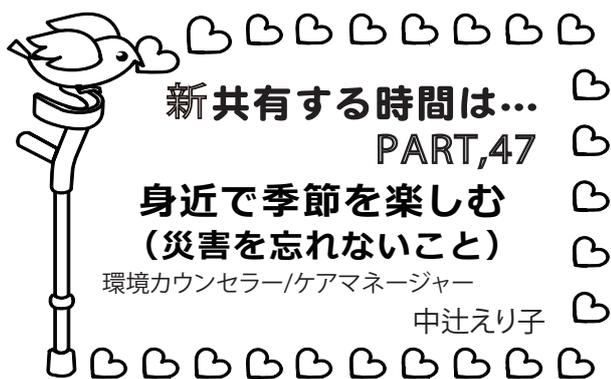
市民の抵抗に対し、ミャンマー軍は当初、インターネットの切断や特定のソーシャルメディアの禁止、住宅やオフィスの（深夜の奇襲的な）手入れと拘束、移動や集会の制限、恣意的な法律改正、特に抵抗の中心となっていた都市部では戒厳令の発令など通し鎮圧しようと試みました。しかし市民の抵抗がより広がる中、軍や警察はあからさまな武力の行使を開始、それは急速にエスカレートし、ゴム弾や放水砲いつしか実弾や擲弾砲<sup>てきだんぱう</sup>に変わり、無差別射撃や一部地域では空爆が行われ、市民に対する殺戮行為としか見えないようになりました。状況は日に日に悪化し、今や各地の武装勢力も巻き込み、このままでは文字通り内戦状態となる危険性がどんどん現実的になっています。ミャンマーの状況やミャンマー軍の資金源については前号で報告させていただきましたが、その時点で400人余りだった軍・警察その他「治安」部隊により殺害された死者の数は、この原稿の執筆時点で報告されているだけでも880人を超え、5000人以上が拘束されたままです。また軍・警察による武力行使や横暴が各地に広がり、民衆や武装勢力との衝突が繰り返される中、数万人が避難民となり、緊急人道支援を必要としています。

一方、軍による拘束を逃れた連邦議会議員の一部は2月5日、政党内閣機能を維持するため、連邦議会代表委員会（Committee Representing Pyidaungsu Hluttaw）を組織し、さらに4月16日、市民社会活動家やその他専門家を閣僚に加えた挙国一致内閣（National Unity Government）が結成されました。この挙国一致内閣は、現在も軍に拘束されているアウンサンスーチー、ウィンミントをそれぞれ国家顧問、大統領として維持し、新たに人権省や女性・若者・児童省などを設立、各省庁の大臣、副大臣が任命しました。5月5日にはミャンマー軍の軍事行動や武力行使、抑圧に対抗するための人民防衛軍が設立され、同月20日には新たに連邦憲法を作成するための委員会も設立されました。

この挙国一致内閣によるミャンマー軍に対する動きはミャンマー国内だけでなく、国連レベルでも繰り広げられています。ニューヨークのミャンマー国連代表部は国連の手続き上、クーデター後もそのまま維持されており、クーデター以前からの国連大使が挙国一致内閣の代表としてそのまま職務についています。一方ミャンマー軍は関係者を独自の代表として国連諸機関・会議に送ろうと試みており、現在、どちらを正式な「ミャンマー代表」として認知するか、国連総会による議論と決断が待たれているところです。このような状況のため、6月21日から開始された国連人権理事会第47会期で予定されていたミャンマーに関する議論の一部は、国連総会によって認知された「ミャンマー代表」の不在を理由に延期されました。

ミャンマー国内での人権・人道惨事が日に日に悪化する中、国連機関、国際社会からの速やか、かつ効果的な行動が求められています。国連総会は「ミャンマー代表」の認知に関してどのような決断をとるのか。人権理事会や安全保障理事会はミャンマー代表が「不在」の間や理事国間の相違がある中どのような行動をとれるのか。ルワンダ、スレブレニツァ、スリランカ、これまでの悲劇からの教訓は果たして活かされるのか。

気に食わないことは武力で制圧する。そんな行為が許されて良いわけありません。しかし国連が決定的な行動を取れない場合、そのような行為が結局放置され、現実上まかり通ってしまう。それが広がれば国際秩序も平和もあったものではありません。



新型コロナウイルス感染対策で緊急事態宣言発令中の運動不足解消は、「マスク着用（時に外して）、自転車で走り過ぎる」ことにしていました。通勤の朝は、自転車で走っていて草花や木の花をよく見かけます。道路脇ではポピーが咲いた後はシロツメクサ（クローバー）の群生。

4月下旬、勤務先併設ディケアのカウンターにスズランが活けられていました。通所の利用者（男性）が持って来られたのです。目の高さで見る1輪の花に惹かれてしまいました。いつも購入している月刊誌に「誕生日の花と花言葉」が載っていて、5月1日の花がスズランで花言葉は「純愛 希望」とあったことを思い出しました。数日後にコピーを渡して、花言葉を伝えると喜んでおられました。

5月中旬。タイサンボクの花が咲く頃と思って久宝寺緑地に出かけると、シャクヤク園が開園されていました。感染対策を取って入口・出口を分けていましたが、入園者は多くなくて楽しんだ後、公園職員の方にタイサンボクのことを尋ねると「花が咲くのは6月だけれど、4年前の台風で倒れて、2本ほどしか残っていない。」とのことでした。

タイサンボクが数本あった場所は覚えていたのに見当たりません。台風21号の強さを思い出しました。河内音頭まつり担当の市の職員の方が「緑地の木が倒れてジャングルになっている」

と言っていたこと、河内音頭まつり（久宝寺緑地で開催）が中止になったこと、緑地そのほかの公園の木々もかなりの数が倒れていたこと。緑地を見に行き、まさにジャングルと思うほどの木々が倒れていたこと、そして我が家の庭の月桂樹も倒れてしまったこと、ブルーシートの支給が行われるほど市内の家屋に被害があったこと…。

樹木の多い緑地帯のジョギングコースを走ると立ち入り禁止の黄色いテープはもちろん張ってなくて、倒れた木々や切り株も撤去されていて、すっかり整備されていました。でも一か所、切り株が残されているのが見えました。ユーカリで、横に表示もあります。

### 台風21号メモリアルツリー ～ユーカリの切株～

平成30年9月4日に襲来した、台風21号の暴風により園内では500本を超える樹木が倒れるなどの被害がありました。この切株は、倒れたユーカリの大木を伐採したものです。

当初は、この切株も復旧のため撤去する予定でしたが、「思い出いっぱいユーカリの木、せめて切株を残してほしい」とのお声を多くの利用者から頂きました。そこで、「災害の恐ろしさ」と「これからの災害に備えていただくための啓発」そして「皆様の思い出いっぱいのメモリアル」として、この切株を残すことといたしました。

6月末。長瀬川沿を北に走ってJR八尾駅手前では、ハンゲショウ（半夏生）の群生があります。この時期（半夏生）になると、緑の葉が半分白くなってきます。もう少し北へ走ると右側に本町第2公園。タイサンボクの木に大きな白い花が咲いていました。





幸せってなんだっけ…ってCMが流れて、もう30年以上過ぎました。

みなさん幸せですか？学校は幸せな場所ですか？

今回のおすすめ本は『「幸せ」な学校のつくりかた』です。

著者は弁護士の真下麻里子さん。「いじめ予防授業」で訪問している学校で遭遇した事例、例えば学校での「マスクの色指定」などをもとに展開されていきます。

法はナマハゲの鬼のように「法に触れるからダメ」と制するものではなくて、個人の尊厳を守るための手段であること。力に頼らないスキルを身につけること。子どもたちに「個人が尊

重される環境」をたくさん確保してほしいということ。等々

「個人の尊厳が守られる学校」になるために、考えるヒントがたくさん詰まっています。

先生も子どもも「あなたは尊い」と感じ合える学校になっていくといいですね。

まず、「すべき」にからめとられているおとなたちが、「したい」を大切にすることから始めましょうか。



『「幸せ」な学校のつくりかた—弁護士が考える、先生も子どもも「あなたは尊い」と感じ合える学校づくり』  
真下麻里子著 教育開発研究所



## じゃいちえ日記

VOL70

### 新しい車イスになって

まちに待った簡易型電動車イスが5月下旬にやっと届いた。幼い頃からリハビリ通院している所で、車イスの仮あわせへ行くことになった(前回と今回から車イスの業者を変えた為)。私の体にあわして車イスを作るためと診断書の判定だったので、時間がかかった。

それが良かったのか、身体にあった車イスが出来た。右手の緊張がある為と傾き予防の為、机を付けたまま出かけている。座面も高くなり、ヘルパーさんがいないと車イスに乗ることも1人では難しくなった。センターへ乗って行くのに手伝ってもらうことになったので、役所へ追加申請することになった。

色々とまだお試し期間中なので、車イスの幅が分かっていなくて……。緊急事態宣言中、店もほとんどしまっていたかな？食べるスペースが無くて、公園で食べる事に……。

でも入口に柵があり、多分Uの字になっていた。車イスの幅がまだつかめていない、初心者なので。タイヤの後輪にぶつけて傷をつける始末。おまけにリハビリ通院の近道も車イスの幅がギリギリの為、幅を通ることが難しい。ヘルパーさんの声かけがあっても、感覚がつかめなかった。途中でパンクしても困る為、安全なルートに行くことにした方が良いと分かった。

あろうことにバッテリーの不具合も起こってしまった。充電しようとしたら、「エラー」の表示。業者に連絡。身体介護の為、一時中断。担当者からの連絡を後回しにした。運よく次の日がりハビリだったので、担当の方がきてくれて助かった(本来、来てくれる曜日ではない)。次号へ。

最後までおしゃべり  
シネマ vol.46



浅田家！  
(2020年 日本)  
監督／中野量太  
主演／二宮和也

**T:** 実在する写真家、浅田政志さんの家族が元になってる映画らしいけど、なんとも穏やかでホッと話す話やった。あんなコスプレ三昧の家族写真集、ほんまに作ったのがすごい(笑)

**E:** お兄さん役の妻夫木聡のナレーションでは「弟に巻き込まれた」っていうけど、チームワークやノリの良さは浅田家ならではの！前半は少年期から写真家になるまでの流れで、けっこう笑わせてもらった。あんな写真、出来るなら撮ってみたい！

ただね、写真家になるまでが結構長かった。政志のやる気スイッチはあるのか?!動き出すのを信じて待つ家族、って主夫の父以外はヤキモキしてるのわかる!!

**T:** 結局、卒業制作の続きのように家族をテーマに撮り始めるんだけど、どうしたいのか、何を残したいのか、じっくり話してそれぞれの家族らしさが映し出されていく。気持ちが詰まった家族写真を撮る写真家になった。

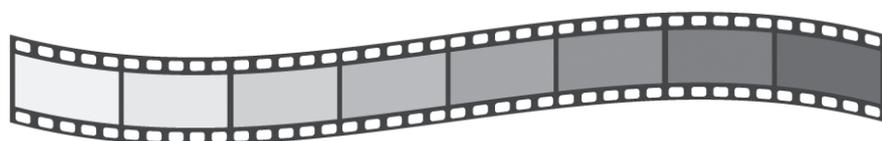
**E:** ファインダー越しのまなざしがいつも優しいね。それだけに東北の震災前に撮影した家族の安否が気になった。後半は被災地で出会った人たちとの話になって、避難所前で泥だらけの写真をもくもくと洗う青年(菅田将暉)に出会うところから。写真への想いは人それぞれだけど、持ち主に返したいと思うのは単なる「モノ」じゃないからだと思う。買えないし撮り直しも出

来ない。搜索や撤去作業の中で、瓦礫の山から出てきたアルバムを見つけやすいように置いてくれていたという話にも泣きそうになった。

**T:** 震災直後やったら、家族の安否もわからず写真にまで気が回らない人も多かったはず。展示した写真を見て怒り出す人もいたね。それどころちゃうけど、そのままでは廃棄物になってしまう。過去の写真が全く見れなくなったら、もう会えない人もいると思うと、きっとさみしいと思う。最近はスマホのカメラで簡単に撮って、プリントすることもないから気にしてなかったけど。

**E:** 今年は震災から10年。ほそぼそと始まった写真や品物の返却活動はボランティアで広がって、何度もいろんな被災地で開催されたけどついに終了するらしい。思い出は心の中にあっても、掛け替えのないものとして大事に思ってくれる人がいて本当によかった。

**T:** もうひとつ印象的だったのは、お父さんの写真がないと言ってた子どもたち。そういえばいつも撮ってくれたのはお父さん、だから写ってなかったんだ!でもいつも一緒だったと気づくところ。息子の修学旅行にカメラを持たせたのに、現像すると本人がちっとも写ってなくてショックだったことも思い出した(泣)。きっと一緒にいる友だちを撮るのが楽しかったんだろうね。



# 勝手にきゃりる

69

<精神障害者が働けないということ>

池谷 麻幸

最近、精神障害者の作業所に数年勤めた若い女性職員が、その職場を辞めた。彼女は辞める時に、学校で習ったことと全然違う、皆働けるのに、働こうとしない、と私に言って去った。

患者の不快な問題行為、例えば弄便などのようなことは、どう対応したらよいのか？

どうしたら、自らの不快感をコントロールして冷静に正しい対応ができるのだろうか？

人の中にある精神障害者を差別する、蔑む気持ち。

ある一般の世間人は、精神障害者福祉について、何でそんな奴らのために俺らが税金払わなあかんねん、と言った。これが世間の人の、本当の気持ちである。

例え世の中で働けない障害者であっても、人間として誇りを持って生きたい。そういう世の中であって欲しいという切実な希望が私には強くある

働けないから自分は駄目な人間だとは思いたくない。

もっと生きること喜びを持ちたい。

働けなくとも生き甲斐を持ちたい。

個人的な人権侵害ということもある。大抵の場合人権侵害は個人的なことから始まる。

# ♪ 歌詞紹介 ♪



## 復興支援ソング「花は咲く」

作詞：岩井俊二 作曲：菅野よう子

真っ白な 雪道に 春風香る

わたしは なつかしい

あの街を 思い出す

叶えたい 夢もあった

変わりたい 自分もいた

今はただ なつかしい

あの人を 思い出す

誰かの歌が聞こえる

誰かを励ましてる

誰かの笑顔が見える

悲しみの向こう側に

花は 花は 花は咲く

いつか生まれる君に

花は 花は 花は咲く

わたしは何を残しただろう

夜空の 向こうの 朝の気配に

わたしは なつかしい

あの日々を 思い出す

傷ついて 傷つけて

報われず 泣いたりして

今はただ 愛おしい

あの人を 思い出す

誰かの想いが見える

誰かと結ばれてる

誰かの未来が見える

悲しみの向こう側に

花は 花は 花は咲く

いつか生まれる君に

花は 花は 花は咲く

わたしは何を残しただろう

花は 花は 花は咲く

いつか生まれる君に

花は 花は 花は咲く

わたしは何を残しただろう

花は 花は 花は咲く

いつか生まれる君に

花は 花は 花は咲く

いつか恋する君のために

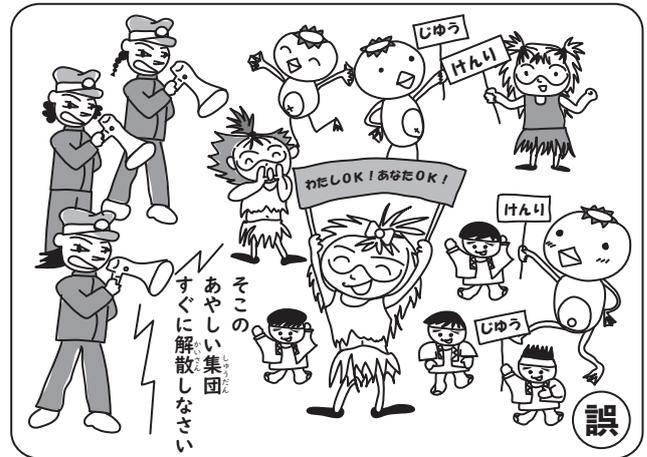
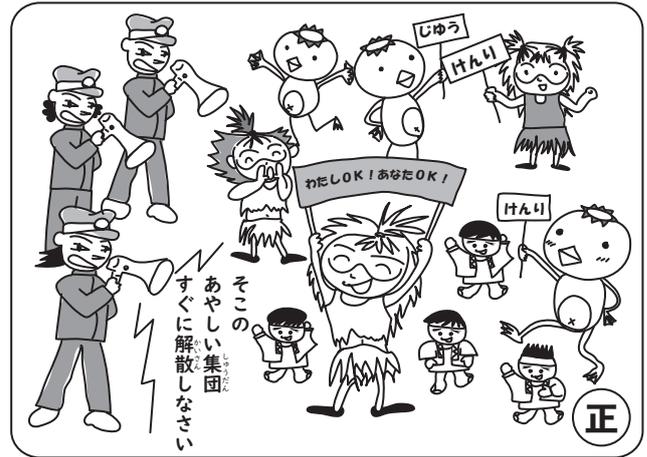
東日本大震災の復興支援ソング「花は咲く」は、作詞の岩井俊二さん、作曲の菅野よう子さんとともに宮城県出身です。震災から10年、新たなバージョン「花は咲く2021」では、岩手・宮城・福島ゆかりの方々が「歌詞」を「朗読」でつないでいくという、新たな演出スタイルです。

復興支援ソング「花は咲く」がさまざまな方々の思いに寄り添っていけるよう、願いを込めて…。



世人やお的世界人権宣言第20条。「集まってもいいし集まらなくてもいいんです」上の絵が正解。下の絵は、まちがいさがし5つあります。探して下記まで送ってくださいネ。

正解者には、世界人権宣言 八尾市実行委員会 オリジナル缶バッジ プレゼント！



誰かが嫌な思いをしないようなやり方で、仲間であつまったり、グループを作ってもいいんです。グループに入りたくなかったら、入らなくてもいいんです。

■世界人権宣言八尾市実行委員会（世人やお）は、人権尊重のまちづくり、ネットワークづくり、市民活動支援を目的に活動しています。活動に参加して下さる、また支援して下さる会員を募集しています。詳しくは右記へご連絡下さい。

○団体会員：年額1口 5000円  
○個人会員：年額 2000円  
〒581-0004 八尾市東本町3-9-19-312 八尾市人権協会  
世界人権宣言八尾市実行委員会 TEL072-924-9853  
E-メール oyaoya@oyaoya.org